



本よもうねっとMIE

去る1月14日(日)、三重県教育委員会主催にて「本よもうねっとMIE (みえ読書活動推進ネットワーク) 構築に向けた交流会」が開催されました。作者、出版社、小売店、図書館、学校、ボランティア活動等々、本を読者の手に届ける全ての分野の方が「読書推進」に一丸となっていかなければ! と強く感じる内容でした。その記念講演の中で、翻訳家のさくまゆみこさん(前JBBY会長)は、「本は子どもに、開いたら違う風景を見せてくれる窓のように、さまざまな世界があるということを教えてください」と話されました。又、「幼い頃から本を読んでいると、成長と同時に人生の選択肢の幅が広くなり、豊かに送ることができる」との言葉も。

多数の翻訳本を出版されているさくまさんですが、講演中で紹介があった本から、わたしが特に心に残った本と、そのテーマをご紹介します。今の時代に大切な本だと感じますので、是非当店でお手にとってみて下さい。



国際児童図書館創設者の物語



ジェンダーの問題について



いじめについて



困難を抱えた子どもについて



当店の定番絵本



お知らせ

2024 2

日	月	火	水	木	金	土
				1 定休日	2	3
4 定休日	5 紙芝居ピッポの会 ミニ講座	6 おはなし会	7	8 定休日	9	10 おはなし会
11 定休日	12	13 大人のための 絵本の時間	14	15 定休日	16	17
18 定休日	19	20 おはなし会	21	22 定休日	23 営業します	24 おはなし会
25 定休日	26	27	28	29 定休日		



おはなし会

6日(火) 11:00~
10日(土) 14:00~
20日(火) 11:00~
24日(土) 14:00~



大人のための絵本の時間

13日(火) 10:00~

大人も絵本を楽しみたい!

紙芝居ピッポの会ミニ講座

5日(月) 14:00~

※ホームページでもぶっくだよりが読めます。「みやがわ書店」で検索するか下のQRコードで

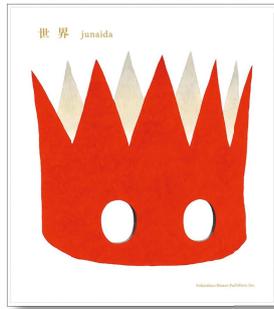


えほんと童話の店 みやがわ書店

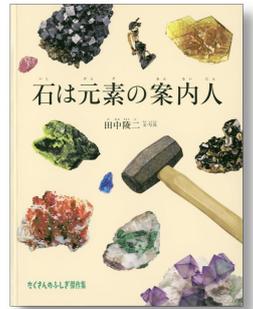
〒519-0505 三重県伊勢市小俣町本町163(JR宮川駅前)

- 電話・FAX 0596-22-4317
- Eメール ehonbaba@gmail.com
- 定休日 毎週日曜日・木曜日
- 営業時間 AM10:00~PM6:00
- ホームページ <https://www.miyagawaehon.com>





新刊紹介



「チクタク村は
おおさわぎ」
イザベッラ・パーリヤ 文
フランチェスカ・
アイエツロ 絵
石井睦美 訳
BL出版 1,980円

チクタク村の大人達は「時間は大事。無駄は禁物。」と、いそがしく駆け回っています。村が少しずつ変わっていつていることに気づく余裕もなく…

「世界」
junaida
福音館書店
2,860円

不思議で、楽しくて、細やかで、美しい絵が魅力のjunaidaさんの新刊。ゆっくり隅々まで眺めて、自分だけの物語を。

「ちいさないえのりすいっか」
ぶん はせがわさとみ
え 田島かおり
白泉社 1,430円

家族みんなで考えた夢いっぱいの家を、家族みんなで作ろう！夢がどんどん広がって、とっても大きな家ができました。でも、大きすぎたかも…

「でんしゃでおでかけ」
ケツクヒデキ さく
福音館書店 1,100円

東京に住むしょうじくんがでんしゃで名古屋までお出かけです。大江戸線、中央線、新幹線！乗り継ぎの駅風景やどんどん変わる景色と一緒に楽しもう！

「石は元素の案内人」
田中陵二 文・写真
福音館書店 1,430円

色んな石の特徴が、ミクロな元素の世界を教えてください。そして石は火山活動等によって地球の奥深いところからやってきたもの。地球の歴史も教えてください。



「みどりいろのつりがね」
オトフリート・プロイスラー 作
ヘルベルト・ホルツィング 絵
武本佳奈絵 訳
好学社 1,870円

イワンの畑から出てきた大きな「みどりのつりがね」の音色は、不思議なことに村人たちの心を豊かにしました。ところが傲慢な皇帝がほしがってしまい…



「海辺の村のパン屋」
作 ポーラ・ホワイト
訳 いけだ さちこ
BL出版 1,760円

海辺の村に住む「ぼく」の将来の夢は漁師になること。でもお父さんはパン屋。「どうして父さんはただのパン屋なんだろう」

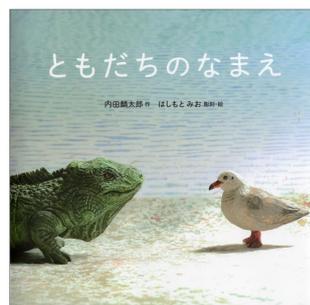
新刊紙芝居



「あわてんぼうのダックスくん」
いとうみき 脚本・絵
童心社 1,540円 8場面

ダックスくん、初めての配達のお仕事です。もぐらくんやりすさんに届けに行きます。でもダックスくんはあわてんぼうなのです。

大人コース



「ともだちのなまえ」
内田麟太郎 作
はしもと みお 絵
教育画劇 1,540円

し、カモメは渡り鳥。南の国へ飛んでいかねばなりません…

(中略)

嵐の夜に生まれたイグアナは、ずっとひとりぼっちで暮らしていましたが、ある日、傷ついたカモメが空から落ちてきて、二人は出会います。こころやさしいカモメはイグアナにいろんな質問をして、イグアナ本人も気づいていない孤独や寂しさを理解します。そしてイグアナに寄り添い、歌をうたい、遠い国の話をしてあげるのです。しか

全編、心象風景のような背景画をバックに、彫刻の主役たちが感情豊かに存在します。カモメを呼んだ場面では、彫刻のイグアナの目に涙が光り、イグアナの感じたであろう喪失感が胸にせまります。ぐいぐいと心動かされる感覚が心地よく、不思議な雰囲気をつつた絵本となりました。

(教育画劇編集部 紹介文より)